

施設内研修 高齢者虐待について

第2ワールドナースিংホーム
介護主任 小出 一成

高齢者虐待とは高齢者が他者からの不当な扱いにより権利、利益を侵害される状態や生命、健康、生活が損なわれるような状態に置かれる事。

虐待の種類は5つあり、①身体的虐待②介護の放棄、放任③心理的虐待④性的虐待⑤経済的虐待である。介護施設で多いのが①の身体的虐待である。ではなぜ起きてしまうのか？

施設外でも施設内でも虐待が起きる背景には必ず原因があります。どちらも共通していることは高齢者が認知症であり介護者の方が思うようにいかないケースが多くストレスを感じやすいことが原因の1つとして考えられます。

施設内で虐待が起きる原因は、研修内であった職員の問題や性格、人員不足や人員配置、多忙による問題、倫理観や理念の欠如が考えられます。認知症を理解し高齢者に寄り添い対応すること、業務内容を改善し職員の働きやすい環境にすることで虐待の芽を摘み可能性を限りなくゼロにすることが出来ると私は考えています。

人は幸せな時オキシトシンというホルモンが分泌されており温かく幸せな気持ちになるそうです。オキシトシンの働きは心を落ち着かせ、やる気や、安心といった幸せな気持ちをもたらしてくれます。人を褒めたり、褒められることでオキシトシンを増やすことができるそうです。

職員同士がお互いを毎日褒めあえ働きやすい環境になれば虐待の可能性はなくなるのではないのでしょうか。

今回の研修で学んだことを介護現場で実践生かしていきたいと思ひます。



リモート面会 始めました

ワールドナースিংホーム
事務次長 垣内 祐起

新型コロナウイルスの影響で、昨年までは、当たり前だった日常生活が当たり前ではなくなりました。ご利用者とご家族の面会もその一つです。今までは冬場にインフルエンザ等の感染症で面会を中止にする事はありましたが、冬場以外に面会を中止する事はありませんでした。面会のご利用者の楽しみの場でもありますので、何とか願いを叶えられるようにと職員と考えた結果、9月よりリモート面会を始めました。ご利用者は画面越しですが久しぶりにご家族の顔を観ると、とてもうれしそうな表情をされていました。まだまだコロナウィルスは猛威をふるってまいりますので、リモート面会をご希望のご家族の方は是非施設までお問い合わせ下さい。お待ちしております。



笑顔あふれる 納涼夏祭り

ワールドナースিংホーム 介護長 鈴木 聡子

令和2年8月26日に夏祭りを行いました。今年は、新型コロナウイルス感染予防の為、例年のようにご家族や近隣の方、ボランティアの方々に参加していただく事ができなかったのですが、施設内にてご利用者様と職員のみで開催しました。

お祭りの屋台をイメージしたフードコーナーでは、たこ焼き、焼きそば、チョコバナナ、綿あめ、ペビーカステラ、かき氷などを振る舞い、何を食べようか迷われている方もいらっしゃいましたが、「美味しい。」「もっと食べたい。」との声も聞かれ、予想以上の売れ行きとなりました。

金魚すくいやヨーヨー釣り、ボーリングや輪投げのゲームコーナーでは、皆様真剣な表情で行っておられました。金魚やヨーヨーが取れると表情が一変、周りの方と一緒に喜び、持ち帰られた後も、金魚やヨーヨーを見ながら話に花が咲いていました。

また、看護師による、太鼓やチャップ、鐘の演奏も行われ、お祭りの雰囲気グッと増し、大いに盛り上がりました。涙を流し喜ばれている方や、演奏に合わせてリズムをとったり、職員と一緒に盆踊りを踊って下さる方等、思い思いに楽しまれている様子でした。

今回、例年とは違い、限られた条件での開催となりましたが、ご利用者様に楽しんでいただけたと思います。また、職員も一緒に楽しむ事が出来、笑顔溢れる楽しい夏祭りとなりました。これからも、ご利用者様に楽しんでいただけるような行事を開催していきたいと思ひます。



公益社団法人 全国老人 福祉施設協議会 永年勤続 感謝状受賞者

ワールドナースিংホーム

看護師 藤井 麻子

第2ワールドナースিংホーム

介護職員 原園美由紀

第2ワールドナースিংホーム

生活相談員 杉本 美恵

第2ワールドナースিংホーム

介護職員 大野 美幸



同和会千葉病院 の新病棟完成

医療法人同和会 千葉病院
院長 小松 尚也

千葉病院の新病棟が完成して、本年9月から稼動しました。

2019年春ごろから基礎工事が始まり、騒音や振動、工事関係の車両、その他、色々ご迷惑を多々お掛けしたことをお詫言申し上げます。

実は新病棟の計画は、2016年の同和会の60周年のころから企画しておりました。建築業界の方と何度も議論を重ね、設計完成まで行きながら、ご破算になったことが2回あり、今回は3度目の正直でした。後悔がないように、しっかりとしたものを建てよう、というのが、千葉病院職員の思いでした。

新しい病棟は二つあり、1つ目は精神科救急病棟です。当院は2008年より、千葉県の精神科救急システムの基幹病院として、船橋市や近隣市町村の救急患者を受けてきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、メンタル面の悪化が懸念されています。コロナに限らず、災害や社会問題のことで、今後も精神科救急が必要であることは言うまでもないと思ひます。この地域でメンタルで困った方のために、救急で受け入れられる充実した環境を作りました。

2つ目は高齢者・合併症病棟です。認知症患者を中心とした高齢者向けの病棟も、今後ますます必要になってゆくと思ひます。この地域でより多くの困っている方々を受け入れるために、病棟の環境、病室の環境をしっかり整えました。

残ったほかの病棟や建物も、順次改築していく予定です。今はコロナ禍のため、内覧などの計画はありませんが、新病棟に関心のある方は、千葉病院の庶務課、あるいは地域生活支援室に遠慮なくご連絡ください。



事務長就任あいさつ

第2ワールドナースিংホーム
事務長 福山 隆司



この度8月1日に就任いたしました福山隆司と申します。前職を定年となり、今回縁あってお世話になることとなりました。簡単に今までの経歴を述べさせていただきます。22歳で就職し概ね医療機関で勤務して参りました。最初の病院は個人病院で訳あって閉院してしまい、前職の復光会に平成10年5月より入職し

定年まで約22年間勤務しました。

特別養護老人ホームのイメージは、これまで頑張りて来られた人生の先輩方をお世話するというやりがいのある職場であり、周りに胸が張れる業種だと思ひます。その一員になれたことは誇りであり、責任感を強く感じているのが現状であります。勤務して約1ヶ月半となりますがまだまだ分からない事が多く、色々な方に迷惑・お世話になりながら日々何とか勤務させて頂いております。これまでどんな事に対しても誠実に対応することを心掛けてやらせて頂きました。これからも継続していきたいと思ひます。

若年寄りでの新人でまだまだ頼りない私ですが、少しでも早く慣れ今までの経験を活かし、清和会に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。